

R7霧島市立医師会医療センター外構1期整備工事 【建築】

KUME
SEKKEI

株式会社 久米設計

2023年 1月20日

図面リスト

建築工事			構造躯体工事								
通し番号	図面番号	図面名称	通し番号	図面番号	図面名称	通し番号	図面番号	図面名称	通し番号	図面番号	図面名称
1	00	図面リスト	22	S-01	建築工事(構造)特記仕様書-1	36	M-01	受水槽廻り衛生配管詳細図(改修)			
2	01	建築工事特記仕様書（霧島市）	23	S-02	建築工事(構造)特記仕様書-2						
3	02	建築 建築工事特記仕様書 1	24	S-03	建築工事(構造)特記仕様書-3						
4	03	建築 建築工事特記仕様書 2	25	S-04	鉄筋コンクリート構造基準図-1						
5	04	建築 建築工事特記仕様書 3	26	S-05	鉄筋コンクリート構造基準図-2						
6	05	建築 建築工事特記仕様書 4	27	S-06	鉄筋コンクリート構造基準図-3						
7	06	建築-建築工事特記仕様書 5	28	S-07	欠番						
8	07	建築-建築工事特記仕様書 6	29	S-08	鉄筋コンクリート構造基準図-5						
9	08	建築-建築工事特記仕様書 7	30	S-09	欠番						
10	09	建築-共通事項・凡例等	31	S-10	鉄骨基準図-1						
11	10	共通設計概要書_付近見取図修正	32	S-11	鉄骨基準図-2						
12	11	求積図	33	S-12	ボーリング柱状図						
13	12	工事着手前配置図	34	S-13	既存手術室棟風除室構造図						
14	13	工事完了後配置図	35	S-14	既存手術室棟キャノピー構造図						
15	14	⑮救急風除室・⑭キャノピー詳細図									
16	15	部分詳細図									
17	16	⑫駐輪場2詳細図									
18	17	サイン図1									
19	18	サイン図2									
20	19	工事手順図1(参考図)									
21	20	工事手順図2(参考図)									

建 築 工 事 特 記 仕 様 書					章	項 目	特 記 事 項	1 名 章 共 通 事 項 (続 き)																						
<div>① 共通仕様 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」(令和7年版)」(以下、「標仕」という。)による。 ② 標仕のうち必要として特記する事項と、その他必要として特記する事項を特記事項とする。 ③ 特記仕様 (1)項目は、番号に ○ 印の付いたものを適用する。 (2)特記事項は、○●の付いたものを適用する。 ・○の付かない場合は、※ 印の付いたものを適用する。 ・○と●印の付いた場合は、共に適用する。 (3)特記事項に記載の[]内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。 (4)特記事項に記載の()は「各部配筋参考図」の当該項目を示す。 (5)製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また()内は製品名を示す。 (6) G[国]は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」の特定調達品目を示す。[G]はグリーン購入法による調達推進品目を示し、「鹿児島県環境物品等調達方針」の環境物品等調達推進品目等一覧表及び別表1(鹿児島県のホームページからダウンロード可能)による。</div> <div>④ 前金払 契約金額300万円以上の工事にあつては、契約金額(全体又は年度毎の出来高予定額)の10分の4を超えない範囲内に限り前払金の支払を請求することができる。</div> <div>⑤ 中間前金払又は部分払かの選択 契約金額300万円以上の工事にあつては、契約に当たり中間前金払又は部分払を選択することができる。</div> <div>⑥ 中間前金払 契約金額(全体又は年度毎の出来高予定額)の10分の2を超えない範囲内に限り7の全ての要件を満たす場合に中間前金払の支払を請求することができる。</div> <div>⑦ 中間前金払の要件 (1)工期の2分の1を経過していること。 (2)工程表により工期の2分の1を経過するまでに実施すべきものとされている当該工事に係る作業が行われていること。 (3)既に行われた当該工事に係る作業に要する経費が請負金額の2分の1以上の額に相当するものであること。</div> <div>⑧ 部分払 前払金を支払ったものについては工期中2回まで、前払金の支払がされていないものは工期中3回までとする。</div> <div>⑨ 火災保険 契約締結後速やかに火災保険に加入し、保険期間は工期後21日とする。</div> <div>⑩ 霧島市産資材及び県産資材の優先使用 工事に使用する資材については、霧島市で産出、生産又は製造されたもの(以下、「霧島市産資材」という。)の優先使用に努めることとし、さらに、霧島市産資材以外の資材等についても、霧島市に主たる営業所を有する資材業者等から調達するよう努めることとする。また、霧島市産資材以外については、県内で算出、生産製造されたものを優先使用するよう努めることとする。</div> <div>⑪ 下請工事における霧島市内建設業者の優先活用 工事の一部を下請に付する場合は、霧島市に主たる営業所を有する者を活用するよう努めることとする。</div> <div>⑫ 配置技術者等の途中交代 (1)配置技術者等の途中交代が認められる場合としては、主任技術者又は監理技術者の死亡、傷病、退職等、真にやむを得ない場合のほか、下記に該当する場合である。 ① 受注者の責務によらない理由により工事中止又は工事内容の大幅な変更が発生し、工期が延長された場合 ② 工場製作を含む工事であつて、工場から現地へ工事の現場が移行する時点 ③ 大規模な工事での一つの契約工期が多数年に及ぶ場合 (2)上記(1)のいずれの場合であっても、受注者と発注者が協議し、工事の継続性、品質確保等に支障がないと認められる場合のみ途中交代が可能となる。</div> <div>⑬ 電子納品 (1)本工事は、電子納品対象工事であり、電子納品とは、「調査、設計、工事などの各業務段階の最終成果を電子成果品として納品すること」をいう。ここでいう電子納品とは、「霧島市電子納品ガイドライン(案)(令和4年4月)」(以下、「ガイドライン」という。)に定める基準に基づいて作成した電子データを指す。 (2)ガイドラインに基づいて作成した電子成果品は電子媒体(CD-R)で正本1部、副本2部の計3部提出する。電子化しない成果品については従来どおりの取扱いとする。電子納品レベル及び成果品の電子化の範囲については、事前協議を行い決定するものとする。 (3)電子成果品を提出する際は、鹿児島県の公開する電子納品チェックソフトによるチェックを行い、エラーが無いことを確認した後、ウィルス対策を実施した上で提出すること。</div> <div>⑭ CAD図面データの貸与について 貸与したCAD図面データは、本工事の履行に必要な施工図及び完成図の作成においてのみ使用することとし、それ以外の目的で使用してはならない。また、当該CAD図面データは、完成図提出時までに、受注者において履行期限期間中に複製又は再配布しているものを全て消去すること。</div> <div>⑮ 暴力団関係者による不当介入を受けた場合の措置 霧島市が発注する建設工事等(以下、「市工事等」という。)において、暴力団関係者による不当要求又は工事妨害(以下、「不当介入」という。)を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、その旨を遅滞なく市(発注者)及び警察に通報すること。 市工事等において、暴力団関係者による不当介入を受けたことにより工程に遅れが生じる等の被害が生じた場合は、市(発注者)と協議を行うこと。</div> <div>⑯ ダンプトラック等による過積載等の防止について (1)工事用資機材等の積載超過のないようにすること。 (2)過積載を行っている資材納入業者から、資材を購入しないこと。 (3)資材等の過積載を防止するため、資材の購入等に当たっては、資材納入業者等の利益を不当に害することがないようにすること。 (4)さし枠の装着又は物品積載装置の不正改造をしたダンプカーが、工事現場に出入りすることがないようにすること。 (5)「土砂等」を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」(以下、「法」という。)の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進すること。 (6)下請契約の相手方又は資材納入業者を選定するに当たっては、交通安全に関する配慮に欠けるもの又は業務に關しダンストラック等によって悪質かつ重大な事故を発生させたものを排除すること。 (7)(1)から(6)のことにつき、下請契約における受注者を指導すること。</div> <div>⑰ 施工体制台帳の作成等について 本工事の受注者は建設工事の一部を下請に付する場合は、施工体制台帳及び添付書類を作成し、工事現場に備え置くとともに、その写しを監理者に遅滞なく(遅くとも下請工事の着手前までに)提出すること。また、施工体制台帳の記載事項又は添付書類に変更があったときは、その都度、当該変更があった年月日を付記して、変更に関する事項について、作成し提出すること。</div> <div>⑱ 施工体系図の作成等について 本工事の受注者は、工事を施工するために、建設工事の一部又は以下のアからエの業務を下請に付する場合は、施工体系図を作成し、工事の期間中、工事現場の工事関係者が見やすい場所及び公衆の見やすい場所に掲示するとともに、その写しを監理者に遅滞なく(遅くとも下請工事又は業務の着手前までに)提出すること。また、施工体系図の記載事項に変更があったときは、その都度、変更に関する事項について、作成し提出すること。 ア 伐採及び測量・調査等の工事現場で作業を行う業務 イ 土砂やコンクリート穀等の運搬のみを行う業務 ウ 工事現場の警備(交通誘導を含む)を行う業務 エ その他監理者が記載を指示した業務等</div> <div>⑲ 法定外の労災保険の付保 本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。</div> <div>⑳ 図面の優先順位 (1)工事請負契約書 (2)工事請負契約約款 (3)質疑回答書(4)から(7)に対するもの)・追加指示書 (4)特記仕様書 (5)設計図面 (6)工事共通仕様書 (7)工事請負代金内訳書</div>					① 適用基準等	※ 適用を受ける関係法令等を遵守すること																								
	② 工事実績情報の登録	※適用する 対象工事 ※工事請負金額500万円以上 ・()			[1.1.4]																									
	③ 品質計画	○施工計画書で工法を定める場合の風圧力の計算 ※基準風速(Vo) (36)m/s ※地表面粗度区分 ・Ⅰ ・Ⅱ ○Ⅲ ・Ⅳ ・上記風圧力の1.3倍の風圧力に対する安全性を確保する ・上記風圧力の1.15倍の風圧力に対する安全性を確保する 適用工種 ○ALCパネル(外壁、屋根)・押出成形セメント板(外壁)・外壁石張(乾式)・外壁材(外断熱工法) ・長尺金属板基○折板基・アルミ笠木・ガラスブロック・シート防水(機械式) ・屋上緑化システム()			[1.2.2]																									
	④ 電気保安技術者	工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。 ○要 ・不要			[1.3.3]																									
	⑤ 施工条件	標仕 1.3.5以外の施工条件 ・図示 ○現場説明書 ○その他(見積り要項書による)			[1.3.5]																									
	⑥ 発生材の処理	・発注者に引渡しを要するもの(・金属類 ・PCB含有物 ・) 引渡し場所 ※構内 ・() ・特別管理産業廃棄物の処理方法() 再生資源化を図るもの又は廃棄するもの(有) ・無			[1.3.11]																									
		<table><tr><th>分 類</th><th>受入れ施設名</th><th>所 在 地</th><th>搬出距離(km)</th></tr><tr><td>・コンクリート塊</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>○アスファルト・コンクリート塊</td><td>霧島砕石(有)</td><td>霧島市牧園町高千穂3524-22</td><td>17.1km</td></tr><tr><td>○建設発生木材</td><td>(株)エコスマイル</td><td>霧島市国分重久字重久迫2662</td><td>8.3km</td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 上記に示す受入れ施設は参考であり、実施に当たっては関係法令を遵守し、適切な処理を行うものとする。 なお、処分場の決定に当たっては、監理者と協議する。 ※建設廃棄物処理計画書の作成 ※再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書の作成	分 類	受入れ施設名	所 在 地	搬出距離(km)	・コンクリート塊				○アスファルト・コンクリート塊	霧島砕石(有)	霧島市牧園町高千穂3524-22	17.1km	○建設発生木材	(株)エコスマイル	霧島市国分重久字重久迫2662	8.3km	・				・							
分 類	受入れ施設名	所 在 地	搬出距離(km)																											
・コンクリート塊																														
○アスファルト・コンクリート塊	霧島砕石(有)	霧島市牧園町高千穂3524-22	17.1km																											
○建設発生木材	(株)エコスマイル	霧島市国分重久字重久迫2662	8.3km																											
・																														
・																														
	⑦ 材料の品質等	本工事に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、JIS及びJASマークの表示のない材料及びその製造者等は、次の(1)から(6)すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監理者の承諾を受ける。 ただし、あらかじめ監理者の承諾を受けた場合はこの限りではない。 (1)品質及び性能に関する試験データを整備していること (2)生産施設及び品質の管理を適切に行っていること (3)安定的な供給が可能であること (4)法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること (5)製造又は施工の実績があり、その信頼性があること (6)販売、保守等の営業体制を整えていること なお、商品名等が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、あらかじめ監理者の承諾を受ける。 ※工事に使用する材料は、アスベストを含有しないもの(含有率0.1％以下)とする。			[1.4.2]																									
	⑧ 環境への配慮	本工事の建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の1)から4)を満たすものとする。 1)合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、コリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する 2)接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する 3)接着剤は可塑剤(フタル酸ジ－n－ブチル及びフタル酸ジ－2－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く)が添加されていない材料を使用する 4)1)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は次のとおりとする 規制対象外 ①建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 第三種品 ①建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ②建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 アスベスト含有建材 本工事に使用する材料については、アスベストを含有しないものとする			[1.4.1]																									
	⑨ 特別な材料の工法	標仕に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による																												
	⑩ 化学物質の濃度測定	施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン(学校施設については、パラジクロロベンゼンを加えた6物質)の濃度を測定し、監理者に報告すること。測定はパッシブ型採取機器により行う 着工前の測定 ・行う 測定対象室 ・図示 ○(協議) 測定箇所数 ・図示 ○(5ヶ所) ※結果が良好でなかった場合には、監理者と協議し対策を行うこと			[1.5.9]																									
	⑪ 一級技能士	下記により適用する技能士については、適用する工事作業中、1名以上の者が自ら作業をするとともに、他の技能者に対して、施工品質の向上を図るための作業指導を行う			[1.5.2]																									

適用工事種別		技能検定の職種	
鉄筋工事	○鉄筋施工(鉄筋組立て作業)		
コンクリート工事	○型枠施工 ○コンクリート圧送作業		
鉄骨工事	○構造物鉄工作業		
ブロック・ALCパネル工事	・ブロック建築 ○ALCパネル施工		
防水工事	・アスファルト防水工事作業 ・合成ゴムシート防水工事作業 ○ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ○シーリング防水工事作業		
石工事	・石材施工(石張り施工)		
タイル工事	・タイル張り		
木工工事	・建築大工		
屋根及びとい工事	○建築板金(内外装板金作業)		
金属工事	○内装仕上り施工(鋼製下地工事作業)		
左官工事	○左官		
建具工事	・サッシ施工 ○ガラス施工 ○自動ドア施工 ・木製建具手加工作業		
カーテンウォール工事	・カーテンウォール施工 ・サッシ施工 ・ガラス施工		
塗装工事	○塗装(建築塗装作業)		
内装工事	・プラスチック系仕上り工事作業 ○ボード仕上り工事作業 ○表装(壁装作業)		
植栽工事	・造園		
畳工事	・畳製作		

完成図 ※作成する(完成図の種類 ※全ての設計図 ・())
完成図の様式等
A3縮小二つ折り製本 ※3部 ・()部
A1二つ折り製本 ※1部 ・()部
完成図のCAD図面データ(DWG形式、JWW形式) CD-R ※3枚 ・()枚
・作成しない
※上記の他に総合図、施工図・工作図、施工計画書のCADデータ(DWG形式、JWW形式)、PDFデータを納品すること。
保全に関する資料 ○作成する(提出部数 ※1部 ・()部)
※作成しない

撮影箇所及び方法については、「工事写真撮影ガイドブック(平成30年版)」による
下記のものを監理者に提出する。ただし、原稿は撮影業者の保管とする

区 分	分 類	規 格	部 数	備 考
着工前	※デジタルカメラ ・カメラ	全果:キャビネサイズ 部分:サービスサイズ	※1部 ・()部	・
工事中 (検査状況)	※デジタルカメラ ・カメラ	カラーサービスサイズ	※1部 ・()部	・
完成時 (出来形時)	※デジタルカメラ ・カメラ	全果:キャビネサイズ 部分:サービスサイズ	※1部 ・()部	・ 外観4面/棟 内部全状況
実態調査用	※デジタルカメラ	カラーサービスサイズ	※2部	・ 外観4面/棟
電子データ	○完成時写真 ○工事中写真 ○着工前写真			・

100×125以上の原板を使う場合には、監理者にあらかじめ焼き提出し確認を受ける
電子データは、RGB(フルカラー)、JPEG形式最高画質とし、CD-ROMにて提出する
撮影業者 ※監理者の承諾する撮影者 ・監理者の承諾する撮影業者

設備機器の設置、取合い等が検討のできる施工図を提出し、監理者の承諾を受ける

⑭ 設備工事との取合い

⑮ 設計QL

⑯ 既存部分等への措置

⑰ 騒音振動の防止

⑱ 部分使用

⑲ 一部完成

⑳ 中間検査

21 白蟻防除工事

22 鹿児島県トライアル
発注制度の製品等

① 監理事務所

・設ける ○設ける(現場事務所内に監理 6 人ほど滞在できる場所を確保) ・設けない
面積規模 ○10m2・20m2・35m2・65m2・100m2・()m2程度
仕上げの程度・設置する設備・備品等の種類及び数量は現場説明書による
監理者スペースと工事監理業務の職員スペースは間仕切り等で仕切る
監理事務所の仕上げ

部 位 等		仕 上 げ	
床		合所張り又はビニル床シート張り	
内壁、天井		合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルジョンペイント塗り	
屋根		塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り、又は、杉板張り、調合ペイント塗り	

構内既存の施設 ※利用できない ○利用できる(※有償・無償)

② 工事用水

③ 工事用電力

④ 現場表示板

⑤ その他

⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

構内既存の施設 ※利用できない ○利用できる(※有償・無償)

② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

規格 (※) ⑧ 図による ・監理者の承諾による
材質 ※県産杉板 ○監理者の承諾による

市シンボルマーク 150×150程度

900

1800

工 事 名
発 注 者
設 計 者
監 理 者
施 工 者
工 期 令 和 年 月 日 ～ 令 和 年 月 日

工事

※設置位置は、監理者との協議による。また取付けは、強風に対し安全な工法とする

同時期に行う土木工事や電気工事との仮囲いを含めた仮設分担等について施工業者間で協議し円滑に工事を進めること。

	訂正	-	KUMESKKEI	株式会社 久米設計	日付	2023.01.20	一級建築士 登録番号	第268016号	井上裕爾	一級建築士 登録番号	第266585号	高橋 創	件名	R7霧島市立医師会医療センター外構1期整備工事(建築)		設計番号	0190403	
		-			PA	井上裕爾	■監	高橋 創										
		-			■監	川上賢史・栗原崇												
		-				横口祐昌、吉川瑞樹												
		-																
建築工事特記仕様書(霧島市)																		
													図面名	建築工事特記仕様書(霧島市)		図面A1判A3判		

建築工事特記仕様書		2) 監理者事務所には、次のICT環境を備える ○IT環境設備に要する費用は、機器セット、インストール、維持、運用費を含め 一切受注者の負担とする。 ○光回線等により、常時インターネット接続のできる環境。 ○単独引込とする ○受注者のネットワーク回線と同じ回線とする。 ○Wifi環境(無線LANにてインターネット接続が可能な設備) ○OA情報対応可能PC ○3セット ○4セット ○5セット ○()セット CPU性能:○Core i3 2.5GHz以上 ○Core i5 2.5GHz以上 RAM容量:○4GB以上 ○8GB以上 HDD容量:○500GB以上 ○1.0TB以上 ○SSD 250GB以上 ドライブ:○DVD-multi ○DVD-スーパーmulti ○DVD-ROMコンボ ディスプレイ:○液晶(19インチ以上) OS:○Windows 10 Pro 64bit版 ○() アプリケーション:○ウイルスチェックソフト ○MS Word MS Excel OMS PowerPoint ○Adobe Acrobat ○写真画像管理ソフト ○() ○CAD情報対応可能PC ○1セット ○2セット ○()セット CPU性能:○Core i5 3.2GHz以上 ○Core i7 3.5GHz以上同等品 RAM容量:○16GB以上 ○32GB以上 ○64GB以上 HDD容量:○1TB以上 ○2TB以上 ○() ドライブ:○DVD-multi ○DVD-スーパーmulti ○DVD-ROMコンボ ディスプレイ:○液晶(24インチワイド) ○液晶(19インチ以上) グラフィック性能:○AutoDesk社公認グラフィックボード搭載 OS:○Windows 10 Pro 64bit版 ○() アプリケーション:○ウイルスチェックソフト ○MS Word MS Excel OMS PowerPoint ○AutoCAD ○Revit ○Adobe Acrobat ○写真画像管理ソフト ○() ○A1版図面プロッター(○モノクロ対応 ○カラー対応) ○A1版図面スキャナー(○モノクロ対応 ○カラー対応) ○液晶プロジェクター ○映写スクリーン ○液晶モニター(TV会議用 43インチ 自立スタンド) ○TV会議用マイクシステム (4)工事名称等の表示 1)仮囲いや外部足場外面に、関係法令に定める掲示物のほか、監理者の指示する工事名称・発注者・設計者・監理者等の表示を設ける。その他の看板等の掲示物については大きさ、書体、仕上げ、取付位置等あらかじめ監理者と協議する。掲示すべき表示のうち、「設計者・監理者看板」を支給する。		7章 鉄骨工事(特記仕様書・建築工事(構造)編による)		○ 5節 押出成形セメント板(ECP)			
● 9節 耐火被覆				8.5.3 外壁パネル工法		種類・厚さ及び種別は、次による。			
7.9.2 耐火被覆の種類及び性能		工法・種類 ●耐火材吹付等(半乾式吹付工法) 材料(バザウ:コーベックス同等) ○耐火板張り 材料(日本インシュレーション:ニュータイカライトR1号、1号同等) ○耐火材巻付け 材料() ○耐火塗料 材料(エスケー化研 SK50(カラー導引仕様)) ○耐火二重鋼管 材料() ○その他 材料()		耐火性能 1階:2時間		適用箇所 1階:柱・梁		施工箇所 表面形状(種類)	
8章 コンクリートブロック、ALCパネル及び押出成形セメント板工事				8.5.4 間仕切壁パネル工法		耐火性能 ○30分耐火構造 ○1時間耐火構造			
○ 2節 補強コンクリートブロック造						種別 ○A種(縦張り工法) ○B種(横張り工法)			
8.2.2 材料		(1)ブロックの寸法及び種類 圧縮強さの区分:○16(C種) 正味厚さ(mm):○100 ○120 ○150 ○180 モジュール呼び寸法(長さ×高さ):○400mm×200mm 種類:○異形ブロック ○防水ブロック ○普通ブロック 断面形状:○空洞ブロック				間仕切壁 ○フラットパネル ○デザインパネル(設計図による)			
8.2.5 鉄筋の加工及び組立		(2)各部の配筋は設計図による				間仕切壁 ○フラットパネル ○デザインパネル(設計図による)			
8.2.8 モルタル及びコンクリートの充填		まぐさを受ける開口部両側のコンクリートを充填するブロックの範囲 : ○幅200mm以上 ○()				間仕切壁 ○フラットパネル ○デザインパネル(設計図による)			
○ 3節 コンクリートブロック帳壁及び塀						間仕切壁 ○フラットパネル ○デザインパネル(設計図による)			
8.3.2 材料		(注)塀の場合で化粧有りのブロックの適用:○適用しない ○適用する()				間仕切壁 ○フラットパネル ○デザインパネル(設計図による)			
8.3.4 鉄筋の加工及び組立		(2)各部の配筋は設計図による				間仕切壁 ○フラットパネル ○デザインパネル(設計図による)			
● 4節 ALCパネル						間仕切壁 ○フラットパネル ○デザインパネル(設計図による)			
8.4.2 材料		種類・厚さ及び取付け構法等は、次による。 パネルの種類等 <JIS A 5416>(表8.4.2)(表8.4.3)(表8.4.4) 工法 厚さ(mm) 単位荷重(N/㎡) 取付け構法種別 ●外壁パネル ○間仕切壁パネル ○屋根パネル ○床パネル		<JIS A 5416>(表8.4.2)(表8.4.3)(表8.4.4) 取付け構法種別 ●A種(縦壁ロックング構法)(表8.4.2) ○B種(横壁アンカー構法)(表8.4.2) ○C種(縦壁ロックング構法)(表8.4.3) ○D種(横壁アンカー構法)(表8.4.3) ○E種(縦壁フットプレート構法)(表8.4.3) ○F種(8.4.4による) ○F種(8.4.4による)		間仕切壁 ○フラットパネル ○デザインパネル(設計図による)			
パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材 : ●JIS A9504:2017(人造鉱物繊維保温材)に適合するロックウール保温板 ○() 床パネルの耐火性能:○1時間耐火構造 ○2時間耐火構造 出隅及び入隅部のパネル接合部の目地幅:●20mm ○ mm 外壁用パネルの表面形状:○()						間仕切壁 ○フラットパネル ○デザインパネル(設計図による)			
[追加] a. ALCパネルを鉄骨の耐火被覆として用いる場合の耐火性能は、設計図による。						間仕切壁 ○フラットパネル ○デザインパネル(設計図による)			
[追加] b. パネル取付け金物の材質・仕上げは次による。						間仕切壁 ○フラットパネル ○デザインパネル(設計図による)			
		部位 材料・仕上げ 一般部 ●パネル製造者の仕様による ○溶融亜鉛めっきC種(ボルト・ナット類はステンレス) 外気に接する取付け金物 ○溶融亜鉛めっきB種(ボルト・ナット類はステンレス) ○パネル製造者の仕様による ○ステンレス(SUS304)				間仕切壁 ○フラットパネル ○デザインパネル(設計図による)			
[追加] c. コーナーに役物パネルを:●使用する ○使用しない						間仕切壁 ○フラットパネル ○デザインパネル(設計図による)			
○ 6節 空洞プレストレストコンクリートパネル [追加]						間仕切壁 ○フラットパネル ○デザインパネル(設計図による)			
8.6.1 [追加] 一般事項		a. この節は、空洞プレストレストコンクリートパネル(以下、この節において「パネル」という。)を屋根(非歩行用)、床、外壁及び間仕切り壁にも用いる工事に適用する。				間仕切壁 ○フラットパネル ○デザインパネル(設計図による)			
8.6.2 [追加] 材料		a. 種類:() 種別:断面平均有効プレストレスの量() 厚さ:() b. パネルは、JIS A 6511の規格品とする。				間仕切壁 ○フラットパネル ○デザインパネル(設計図による)			

文庫番号073-23-20191018 建築工事特記仕様書1

	訂正	-	KUMESKKKEI 株式会社 久米設計	日付	2023.01.20	一級建築士 登録番号 第268016号 井上裕倫	一級建築士 登録番号 第266585号 高橋 創	作成	R7霧島市立医師会医療センター外構1期整備工事(建築)	設計番号	0190403
	PA	井上裕倫		高橋 創							
	担当	川上賢史、栗原崇									
		横口広昌、吉川瑞樹									
				図面名	建築工事特記仕様書1		図面番号	02			

9章 防水工事		9.2.3 防水層の種類、種別及び工程	種別と施工箇所は、次による。(表9.2.3～表9.2.9)				仕上塗料の種類及び使用量(表9.3.1～表9.3.3)				○ 8節 ステンレスシート防水・チタンシート防水〔追加〕					
● 1節 共通事項			種別	保護層(仕上材)	施工箇所	仕上塗料の種類				9.8.1 一般事項	a. この節は、建築物の屋根及び庇などにステンレスシート防水層またはチタンシート防水層(以下、防水層という)を施工する場合に適用する。 b. 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を、標仕1.2.2「施工計画書」による品質計画で定め、標仕9.1.2及び標仕9.1.3を適用する。 c. この節及び設計図に規定のない事項は、JASS 8 による。					
9.1.2 [追加] 基本要品質						○ シルバー塗料	○ アスファルト系(溶剤系) 0.2～1.0 ○ 合成樹脂溶剤系 0.2～0.4 ○ 合成樹脂エマルジョン系 0.2～0.4 アクリル樹脂系 0.3～0.5									
a. 防水層は、設計用風圧力に対して、はく離・飛散・防水層の破断等の不具合が発生しないものとする。 b. 露出防水は、耐久上及び美観上有害なふくれ・浮きがなく、下地への適正な接着性を保持する。																
9.1.3 [追加] 施工一般			屋 保護防水	密着	○A-1 ○コンクリート ○ ○A-2 ○コンクリート ○ ○A-3 ○コンクリート ○ ○A I-1 ○コンクリート ○ ○A I-2 ○コンクリート ○ ○A I-3 ○コンクリート ○ ○B-1 ○コンクリート ○	絶縁	○B-2 ○コンクリート ○ ○B-3 ○コンクリート ○ ○B I-1 ○コンクリート ○ ○B I-2 ○コンクリート ○ ○B I-3 ○コンクリート ○ ○D-1 ○仕上塗料 ○ ○D-2 ○仕上塗料 ○ ○D-3 ○仕上塗料 ○ ○D-4 ○仕上塗料 ○ ○D I-1 ○仕上塗料 ○ ○D I-2 ○仕上塗料 ○ ○E-1 ○コンクリート ○ ○E-2 ○コンクリート ○	根	露出防水	(表9.4.1)(表9.4.2)				9.8.2 性能	JASS 8 2.2.2を適用する	
a. 各種防水工事及びシーリング工事の施工は、各専門事業者による。 b. 施工図には、排水勾配、排水溝、立上り端部、出隅入隅部分、ドレーン廻り、貫通部分、伸縮調整目地及び他の材料、他の工事との取り合い等の詳細を記載する。 c. 各種防水の施工に際しては、周辺環境への配慮や作業環境を考慮した対策を講ずる。 d. 防水の下地となるコンクリート面の含水率は8%以下とする。防水施工前に、下地コンクリート面の含水率を測定し、監理者に報告する。 e. 屋根の場合、屋根防水層の水勾配は、スラブ勾配で確保する。水勾配は保護コンクリートのあるものは1/100以上、保護コンクリートのないものは1/50以上を標準とする。 f. 各種露出防水工法(ステンレスシート防水、チタンシート防水を含む)は、設計用風圧力(負圧)に対する計算書を作成し、監理者に提出する。										具体的仕上塗料の種類と塗布量はルーフィング類の製造所の仕様による			9.8.3 防水下地の基本条件			JASS 8 2.2.3を適用する。但し、その他の下地を用いる場合は、下地の平坦さ、吊子の固定などJASS 8 2.2.3に準ずる条件を満足するとともに、吊子の保持力を十分に確保する。
9.1.4 [追加] 防水の水張り試験・散水試験			屋 保護防水 内	密着	○ 4節 合成高分子系ルーフィングシート防水(表9.4.1)(表9.4.2)				9.8.4 防水層の種類と適用					a.風環境による働き幅の区分 ○ 働き巾280mm(風環境強風に適用：風荷重最少部分で4800N/㎡を超える場合) ○ 働き巾450mm(風環境一般に適用：地域、立地条件、建物高さ、形状等に影響される) b.腐食環境による材質の種類 ○ SUS445J2及びチタン等(腐食環境強風に適用：海岸地域など腐食性因子の作用が過酷) ○ SUS304を標準(腐食環境弱に適用：耐食性がそれほど求められない)		
a. 水張り試験： ●行う ○行わない 1)水張り試験の範囲 (○防水範囲全て ●屋外屋根はドレーン周囲、屋内は防水範囲全て) 2)水張り試験の時間 (○24時間 ●48時間) 3)水張り試験における水深は、設計 荷重を超えない範囲で設定する。 b. 設備水槽・グリーストラップ・地流し・排水溝・池等の水張り試験は、全数行う。具体的な試験方法等については、試験計画書を作成し、監理者の承認を受ける。 c. 散水試験： ●行う ○行わない 1)散水試験は、次の内容を実施し、防水層端部、防水層と建具・トップライト取合い部、異種工事取合い部分等及びシーリング部の止水性能を確認する。 2)試験対象部位 (防水立ち上がり部端部、屋上階、窓) 3)試験実施数 (対象部位全数) 4)試験の程度 防水の対象部位に散水を行い、漏水がないことを確認する。散水は、次を標準として1箇所あたり10分間程度とする。 ●散水ノズル圧力4MPa(噴角10度)にて、試験部位から約120cmの位置より散水 ○ 5)シーリング部の散水試験実施時期は、シーリング施工完了時点とする。ただしダブルシーリング方式の場合は、次による。 ●二次シール(内部側)施工完了時点で、一次シール(外部側)施工前 ○二次シール及び一次シールとも施工完了後 6)その他 試験に先立ち、試験計画書を提出する。試験内容の詳細については、事前に監理者と協議する。試験により不具合が発生した場合は、必要な処置を行った後の確認のため、再度散水試験を行う。						(1)種類及び厚さ ○いずれも使用区分は非歩行用				9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による					
9.1.5 [追加] 防水の保証期間									(表9.4.1)(表9.4.2)				9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による		
a. 防水工事は、専門工事業者による責任施工とし、保証に関する資料を監理者に提出する。保証期間は、完成引渡し日より次による。						(表9.4.1)(表9.4.2)				9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による					
防水種別						保証期間						9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による			
○アスファルト防水 保護層有						○10年 ○15年 ○20年(品確法適用の場合で協議による最長の場合)				9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による					
○アスファルト防水 保護層無						○10年 ○						9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による			
○改質アスファルトシート防水						○10年 ○				9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による					
○合成高分子系ルーフィングシート防水						○10年 ○						9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による			
○複合塗膜防水 注1)						○10年 ○				9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による					
●塗膜防水						●10年 ○						9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による			
○ポリマーセメント系塗膜防水						○5年 ○				9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による					
○ステンレス防水、チタンシート防水						○10年 ○						9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による			
○ケイ酸質系塗布防水						○5年 ○				9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による					
○FRP防水						○10年 ○						9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による			
注1)ウレタン系塗膜防水(K-1)等2層以上の防水層を組み合わせた構成として、下地のひび割れに対する追従性及び防水性を向上させた塗膜防水。										9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による					
9.1.6 [追加] シーリングの保証期間				a. 外装シーリング材は、完成引渡し日より次の保証期間内に、シーリング材の破断、はく離等が生じた場合、原因調査のうえ無償にて補修を行う。 SR-2・MS-2・SR-1・PS-2はワーキングジョイントを含む。	材料			保証期間								9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
				SR-2		3年						9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による			
				SR-1、MS-2		5年								9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
				PS-2		3年						9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による			
				ストラクチュアレグレージング・ジッパーガasket		10年								9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
				強度保証とも								9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による			
				グレージングチャンネル・ボード GR、EPDM		7年								9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
				グレージングチャンネル・ボード PVC		2年						9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による			
○ 2節 アスファルト防水														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
9.2.2 材料																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料
														9.8.5 材 料	a.金属系防水シートの材質は、以下による (1)ステンレスシート防水・チタンシート防水 指定は、○ 次表による ○ 設計図による	
																9.8.5 材 料

9.8.6
施工法

JASS 8 2.2.6を適用する。

9.8.7
施工管理

a.作業環境
(1)降雨時・降雪時には溶接作業をしてはならない。
(2)強風により金属系防水シートのばたつき、折れ、飛散などが予想される場合、作業してはならない。
b.検査・試験
(1)完成時の検査・試験
(ⅰ)目視検査によりシーム溶接部に未溶接部や穴などの欠損がないことを確認する。欠陥が発見された場合は、ただちに補修する。
(ⅱ)水張り試験
○実施する（実施する場合の方法等は、JASS 8 による）
○実施しない

○ 9節 セメント系防水〔追加〕

9.9.2
材料他

a.この項は標仕9.1.2 9.1.3を適用する。
b.セメント防水に使用する防水剤はJIS 1404:2015による試験に合格したものとし、防水材製造者の仕様に基づき施工する。
c.ポリマーセメント系塗膜防水に使用する防水材は、日本建築学会が刊行している、「ポリマーセメント系塗膜防水工事施工指針(案)」の品質規格に適合したものとし、防水材製造者の仕様に基づき施工する。
d.上記以外の材料については、監理者の承諾を受ける。
防水層の適用箇所及び種別

施工箇所	種別	備考(程度)
屋根側溝	○セメント防水	
水槽類	○ポリマーセメント系塗膜防水	

e.ポリマーセメント系塗膜防水の仕様
OPA－1 OPA－2 OPA－3 OPB－1
ポリマーセメント系塗膜防水層の保護・仕上げ
○非歩行用仕上塗料 ○軽歩行用仕上塗料 ○セメントモルタル
○薄塗り型ポリマーセメントモルタル ○保護緩衝材(防水材製造業者の仕様による)

○ 10節 FRP系塗膜防水〔追加〕

9.10.1
一般事項

この節は、建築物の屋根、開放廊下、ベランダ、室内、水槽類、水泳プール、人口池、庭園、外構などにFRP系塗膜防水を施工する場合に適用する。

9.10.2
性能

JASS 8 1.1.2を適用する。

9.10.3
防水下地の種別と適用

基本条件 原則、現場打ち鉄筋コンクリート下地に適用する

9.10.4
防水層の種別と適用

a.防水層の種別及び適用は、JASS 8 標準仕様、指針仕様、指針参考仕様による。

施工箇所	種別	適用	保護・仕上の種類	備考(程度)
排水処理槽	D	床/壁/天井	トップコート	BZ－D2
汚水ポンプアップ槽	D	床/壁/天井	トップコート	VZ－D

9.10.5
材料

a. JASS 8 1.1.9 塗膜防水工事のb.材料に記載のあるFRP系塗膜防水工事に関係する項目を適用する。

9.10.6
施工法

a. JASS 8 1.1.9 塗膜防水工事のc.施工方法に記載のあるFRP系塗膜防水工事に関係する項目を適用する。

9.10.7
保護・仕上げ

a. FRP系塗膜防水層の保護・仕上げの種類は、JASS 8 標準仕様、参考仕様、並びに、建築学会「FRP防水工事施工指針」による仕様に記載のあるものを標準とする他、JASS 8 1.1.9 (塗膜防水工事)d.保護・仕上げに記載のある項目を適用する。保護・仕上げ層の施工に先立ち、防水層の硬化状態を確認する。

10章 石工事

○ 1節 共通事項

10.1.3
施工一般

〔追加〕

(1)石材の割付け：○設計図による。
a.施工は、石専門事業者による。
〔追加〕 b.施工図には、石材等の種類、厚さ、大きさ、仕上げ、割付け、取付け工法、取付け金物及び他の工事との取合い等の詳細を記載する。

○ 2節 材料

10.2.1
石材

(1)天然石

施工箇所	種類	等級	品質 (産地・程度)	厚さ	目地寸法 (幅×深さ)	表面仕上げ	裏面処理及び裏打処理	工法
					×			
					×			
					×			

(2)テラゾ・凝石

施工箇所	種類	等級	種石 (種類)	厚さ	目地寸法 (幅×深さ)	表面仕上げ	備考(程度)
					×		
					×		
					×		

〔追加〕(3)人造石・加工石

施工箇所	種類	等級	材質	厚さ	目地寸法 (幅×深さ)	表面仕上げ	備考(程度)
					×		
					×		
					×		

10.2.2
取付金物

(1)外壁湿式工法及び内壁空積工法用金物
○外壁湿式工法の受金物の材質：○SS400 ○SUS304 ○()
○内壁空積工法の受金物の材質：○SS400 ○SUS304 ○()
(2)乾式工法用金物の方式：○スライド方式 ○ロッキング方式

10.2.3
その他の材料

(5)外壁湿式工法に使用するドレインパイプの材質：
○樹脂ネット製パイプ、クロスメッシュ巻き 25～35 φ
○ステンレス製パイプ SUS304

11章 タイル工事

○ 1節 共通事項

11.1.2
基本要品質

a.施工は、タイル専門事業者による。
b.施工図には、タイルの材質、割付け、張しろ、出隅入隅部分、伸縮目地、特殊部分の取付け方法及び他の工事との取合い等の詳細を記載する。

○ 2節 セメントモルタルによるタイル張り

11.2.2
材料

(1)タイルの形状、寸法、耐凍害性の有無、耐滑り性、標準色・特注色の別等

施工箇所又は仕上表の分類記号	タイル形状	寸法			耐凍害性	耐滑り性	色 施釉		備考(程度)		
		縦 (mm)	横 (mm)	厚さ (mm)			有	無			
							有	無			
					○	○	○	○	○		
					○	○	○	○	○		
					○	○	○	○	○		
					○	○	○	○	○		

(2)役物：○適用する ○適用しない
(3)試験張り：○行わない ○行う()

11.2.3
張付け用材料

(3)○現場調合モルタル ○既調合モルタル

11.2.7
施工

(1)下地及びタイルごしらえ
コンクリート素地面：○MCR工法 ○高圧洗浄 ○超高圧洗浄
(3)壁タイル張り工法の適用
内装タイル：○改良積上げ張り
外装タイル：○密着張り ○改良積上げ張り ○改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル：○マスク張り ○モザイクタイル張り

○ 3節 有機系接着剤によるタイル張り

11.3.2
材料

(1)タイルの形状、寸法、耐凍害性の有無、耐滑り性、標準色・特注色の別等

施工箇所又は仕上表の分類記号	タイル形状	寸法			耐凍害性	耐滑り性	色 施釉		備考(程度)		
		縦 (mm)	横 (mm)	厚さ (mm)			有	無			
							有	無			
					○	○	○	○	○		
					○	○	○	○	○		
					○	○	○	○	○		
					○	○	○	○	○		

(2)役物：○適用する ○適用しない
(3)試験張り：○行わない ○行う()

11.3.3
張付け用材料

(1)接着剤のホルムアルデヒド放散量：○F☆☆☆☆ ○

11.3.7
施工

(1)下地及びタイルごしらえ
コンクリート素地面：○MCR工法 ○目荒し工法
(2)壁タイル張り工法の適用
○内装タイル
○外装タイル
○内装タイル以外のユニットタイル

12章 木工事

○ 1節 共通事項

12.1.4
表面仕上げ

見え掛り面の表面仕上げの程度と適用範囲：

表面仕上げの程度	適用箇所
○A種(超自動機械かんな掛け仕上げ)	内部造作見え掛り材
○B種(自動機械かんな掛け仕上げ)	外部造作見え掛り材
○C種(サンダー掛け仕上げ)	下地材

○ 2節 材料

12.2.1
木材

(1)〔イ〕含水率(表12.2.1)

木材部位	含水率の種別	備考
○下地材	○A種 ○B種	
○造作材	○A種 ○B種	

(2)製材
(ア)「製材の日本農林規格」による製材：
○(a)下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法	等級	材面の品質	形状	含水率	保存処理
	○杉 ○松	設計図による	○2級	無節	○板類耳付 ○押角	%以下	

○(b)造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法	等級	材面の品質	形状	含水率	保存処理
	○杉 ○松	設計図による	○2級	無節	○板類 ○角類	%以下	

○(c)広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法	等級	材面の品質	形状	含水率	保存処理
	○杉 ○松		○1等		○耳付有 ○耳付無		

(イ)「製材の日本農林規格」以外の製材
○(a)下地、造作及び仕上げに用いる製材

施工箇所	樹種	寸法	材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率

(3)造作用集成材：ホルムアルデヒド放散量：○F☆☆☆☆ ○
(ア)「集成材の日本農林規格」による製材：
○(a)造作用集成材<JAS>

施工箇所	樹種	寸法	見付け材面の等級
			○1等 ○2等

○(b)化粧ばり造作用集成材<JAS>

施工箇所	化粧薄板樹種	心材樹種	寸法	化粧薄板厚さ(m m)	見付け材面等級
				○1.5以上	○1等 ○2等
				○1.2以上	○1等 ○2等
				○3.0堅木	○1等 ○2等
				○3.0堅木	○1等 ○2等
					○1等 ○2等

○(c)化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	化粧薄板樹種	芯材樹種	寸法	化粧薄板の厚さ

(イ)「集成材の日本農林規格」以外の製材
○(a)造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法	見付け材面の品質	含水率
				○15%以下

○(b)化粧ばり造作用集成材

施工箇所	化粧薄板樹種	心材樹種	寸法	化粧薄板厚さ	見付け材面品質

含水率：○15%以下
○(c)化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	化粧薄板樹種	心材樹種	寸法	化粧薄板厚さ

含水率：○15%以下
(4)造作用単板積層材：ホルムアルデヒド放散量：○F☆☆☆☆ ○
○(ア)「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材：

施工箇所	厚さ	表面の品質	防虫処理

○(イ)「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材：

施工箇所	厚さ	表面の品質	含水率	防虫処理
			○14%以下	

(5)直交集成板(「直交集成板の日本農林規格」第3条「規格」

施工箇所	品名	曲げ強度(強度等級)	種別	接着性能(使用環境)	樹種	寸法

(6)床張り用合板等：ホルムアルデヒド放散量：○F☆☆☆☆ ○
(ア)下地合板
○(a)普通合板

施工箇所	厚さ	表面の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	難燃処理	防災処理
	○5.5mm		○1類				

○(b)構造用合板

施工箇所	等級	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ	保存処理
	○2級以上		○特類 ○1類	C-D以上	○12mm	

○(イ)化粧ばり構造用合板(「合板の農林規格」第7条「化粧ばり構造用合板の規格」)

施工箇所	品名	厚さ	単板の樹種名	接着の程度	保存処理
				※常時湿潤状態の場合は特殊	

○(ウ)天然木化粧合板(「合板の農林規格」第8条「天然木化粧合板の規格」)

施工箇所	厚さ	単板の樹種名	接着の程度	化粧加工の方法
				○オーバーレイ○プリント ○塗装○

○(エ)特殊加工化粧合板(「合板の農林規格」第9条「特殊加工化粧合板の規格」)

施工箇所	品目	厚さ	単板の樹種名	接着の程度	化粧加工の方法
					○オーバーレイ○プリント ○塗装○

○(オ)パーティクルボード

施工箇所	表裏の状態による区分	曲げ強さによる区分 (N/mm2)	接着材による区分	厚さ
		○15	○M ○P	15mm

○(カ)構造用パネル

施工箇所	等級	厚さ	備考

○(キ)ミディアムデンシティーファイバーボード(MDF)(JIS A5905)

施工箇所	表裏面の状態	曲げ強さ	接着剤	難燃性	厚さ
	○普通MDF ○素地MDF ○無研磨(RN) ○研磨(RS) ○化粧MDF ○単板オーバーレイ(DV) ○プラスチックオーバーレイ(DO) ○塗装(DC) ○構造用MDF ○無研磨(RN) ○研磨(RS)	○30タイプ ○25タイプ ○15タイプ ○5タイプ	○Uタイプ ○Mタイプ ○Pタイプ	○難燃2級 ○難燃3級	

12.2.2
接合具等

(3)接着材のホルムアルデヒド放散量：○F☆☆☆☆ ○

12.2.3
木れんが

(2)接着材のホルムアルデヒド放散量：○F☆☆☆☆ ○

○ 3節 防腐・防蟻・防虫処理

12.3.1
防腐・防蟻処理

(ア)薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理
適用部位：()
保存処理性能区分：()
(イ)薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理
(a)木材保存処理による処理及び薬剤
○通常、水分が供給される可能性が少ないが、突発的に高温度の環境下に置かれる可能性のある木材への使用
○薬剤の種類：()
○適用範囲：()
(b)処理方法：○標仕12.3.1(イ)(b)による ○()
(ウ)ボード原料接着材への薬剤混入による防腐・防蟻処理
保存処理性能区分：()
処理方法：()
(エ)合板等の加圧注入による防腐・防蟻処理
○合板の日本農林規格 ○集成材の日本農林規格 ○単板積層材の日本農林規格
※保存処理性能区分K3に適合するもの又はこれと同等の保存処理性能のものとする。

12.3.2
防虫処理

適用：(無し) ()

○ 4節 鉄筋コンクリート造等の内部間仕切軸組及び床組

12.4.1
木材

(1)間仕切軸組に用いる木材 ○杉 ○松 ○()
(2)床組に用いる木材 ○杉 ○松 ○()
但し、スラブの類の場合の土台、転ばし大引き及び転ばし根太 ○ひのき ○保存処理木材

○ 5節 窓、出入口その他

12.5.1
木材

窓、出入口その他に用いる木材 ○()
吊元枠・水掛りの下枠、敷居、その他 ○松 ○杉

○ 6節 床板張り

○ 7節 壁及び天井下地

12.7.1
木材

木材 ○杉 ○松 ○()

13章 屋根及びびとい工事

● 1節 共通事項

13.1.3
施工一般

〔追加〕

a.施工は、屋根専門事業者による。
b.施工図には、勾配、排水溝、立上り部分、谷部分、棟、軒先、けらば廻り、ドレーン廻り、貫通部分及び他の工事との取合い等の詳細を記載する。

○ 2節 長尺金属板葺

13.2.2
材料

(1)長尺金属板の種類：

規格番号	材料	めっき付着量	厚さ(mm)	施工部位
○JIS G 3322	CGLCC	AZ150	0.4	屋根
○				
○				

(3)下葺材料の種類
○JIS A 6005(アスファルトルーフィングフェルト)によるアスファルトルーフィング940
○改質アスファルトルーフィング下葺材(一般タイプ、複層基材タイプ、粘着層付タイプ)
※釘又はスチーブルが打てない下地の場合は、改質アスファルトルーフィング下葺材(粘着層付タイプ)とする。

13.2.3
工法

(1)屋根葺形式：○横葺 ○瓦葺葺(心木なしの場合) ○立平葺 ○()
(2)耐風圧力及び積雪荷重に対応した工法：()
(3)屋根葺工法：()
(4)(コ)止めめ：○設ける ○設けない

●3節 折板葺

13.3.2
材料

(1)折板
形式：●重ね形 ○はざ締め形 ○かん合形 ○
山高：●(88)mm
山ピッチ：●(200)mm
耐力による区分：○(
材料による区分：●鋼板製 ○(
厚さ：●(0.8)mm
(2)折板に使用する材料：●塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯
(3)タイフレームに使用する材料：○直接外気の影響を受けない屋内の場合の表面処理：
●表14.2.2(鉄鋼の亜鉛めっきの種類)F種 ○(
(5)軒先面戸板：●適用する ○適用しない
(7)断熱材張り
断熱材張り：●しない ○する：断熱材の種類：() 厚さ：()mm
防火性能 : ○30分 ○

13.3.3
工法

(1)工法：●(吊り工法)

○4節 粘土瓦葺

13.4.2
材料

(1)粘土瓦
種 類：○(
大きさ：○(
産 地：○(
役付瓦の種類：○(
雪止瓦の使用：○する ○しない
JIS A5208に基づく凍害試験：○行う ○行わない
(2)瓦桟木及び桟木取付け用部材等
材質：○杉又はひのき(防腐処理済) ○(
寸法：○幅21mm×高さ15mm以上 ○(
(3)棟補強用心材
材質：○杉又はひのき(防腐処理済) ○(
寸法：○幅40mm×高さ30mm以上 ○(
(4)瓦留付け用釘、緊結線、棟補強用金物等
棟補強に使用する金物
材質：○ステンレス製 ○溶融亜鉛メッキ処理を行った鋼製
形状：()寸法：() 留め付け方法：()

13.4.3
工法

(1)工法：○(
(3)桟木の留付け工法：○(
(4)棟の工法：○7寸丸伏せ棟 ○F形用冠瓦伏せ棟 ○のし積み棟 ○()

●5節 とい

13.5.2
材料

(1)とい
材種：○配管用鋼管 ○排水管継手 ○硬質ポリ塩化ビニル管(OVP OVM OVU)
○硬質ポリ塩化ビニル管継手 ○硬質塩化ビニル雨とい
○塩化ライニング鋼管(DLLP) ○表面処理鋼板 ○ステンレス鋼板
●アルミニウム雨とい
耐酸被覆鋼板：○(
(2)とい受け金物及び足金物の材種、形状及び取付け間隔
多量地域の適用 ○適用する ●適用しない
(3)防露材
防露材のホルムアルデヒド放散量：●F☆☆☆☆ ○

13.5.3
工法

鋼管製といの防露巻き工法：○表13.5.4による ○

14章 金属工事

●1節 共通事項

14.1.2 [追加]
基本要品質

a. 施工図には取付け工法、他の工事との取合い等詳細を記載する。屋外軒先天井等風圧を受ける部分及び吊荷重の大きな部分等には、補強を行う。

●2節 表面処理

14.2.1
ステンレスの表面
仕上げ

施工箇所	表面処理の種類
設計図による	●HIL ○No.2B ○鏡面 ○()

14.2.2
アルミニウム及び
アルミニウム合金
の表面処理

施工箇所	種別	皮膜又は複合皮膜 の種類	着色方法	色合い
設計図による	●(C)種	〇AA15 〇AA6	●中高温焼付	●指定色

(注)化成皮膜(種別:C種)の上に常温乾燥形の塗装の場合：化成皮膜処理を施した上にローラーコートー塗装とする。

14.2.3
鉄鋼の亜鉛めっき

●外部に使用する鉄鋼部は全て亜鉛めっきとし付着量試験を行う。(表14.2.2)

施工箇所	種別	A種	付着量(g/㎡)厚さ(μm)	最少板厚(mm)
外部鉄部 (設計図による)	●溶融亜鉛めっき	●A種	550g/㎡以上	6.0以上
		○B種	450g/㎡以上	3.2以上
		○C種	350g/㎡以上	1.6以上
	○電気亜鉛めっき	○D種	20μm以上	
		○E種	13μm以上	
		○F種	8μm以上	

●3節 溶接、ろう付けその他

●4節 軽量鉄骨天井下地

14.4.2
材料

(2)野縁等の種類：屋内 ●19型 ○25型
屋外 ○19型 ●25型

14.4.3
形式及び寸法

(1)屋外の場合：
野縁受等の間隔(一般部)：●700 mm
野縁受等の間隔(周辺部)：●100 mm
屋外の野縁の間隔：●250 mm

ただし、上記の野縁等は特定天井には適用しない。また、耐震性・耐風性の検討により上記と異なる種類、間隔となる場合はその結果による。

14.4.4
工法

(8)天井ふところが1.5mを超える場合の補強：
○構造的検討をしたぶどう棚等を下地とした直天井とする
(10)天井下地材における耐震性を考慮した補強：

	仕様A	仕様B	仕様C	仕様D
特徴	【特定天井】 告示第771号で規定される天井	【耐震対策天井】 特定天井に該当しないが、特定天井と同 等、または特定天井に準ずる耐震性を有する天井	【落下低減天井】 天井の落下低減を図った天井	【標準天井】 標準仕様書に準拠した天井
適用箇所	仕上表による (適用基準) 面積：200㎡超かつ 高さ：2kg/㎡超かつ 用途：人が日常利用 する場所	設計図による (適用例) 左記に準ずる部屋 防災上重要な部屋 など	設計図による (適用例) 一般居室 避難通路 など	設計図による (適用例) その他
設計水平震度	○告示1.0Gの 大きいほう ○告示による ○G	○告示1.0Gの 大きいほう ○告示による ○G	なし	なし
設計鉛直震度	○告示による ○0.5G ○G	○告示による ○0.5G ○G	なし	なし
耐震ブレース	あり(詳細は図示)	あり(詳細は図示)	なし	なし
ハンガー	-	-	ハンガービス留め	本来工法
クリップ	-	-	クリップビス留め	本来工法
壁・柱との間の クリアランス	○60mm ○mm	○60mm ○mm	なし	なし

●施工計画書に天井設計用加速度に対する天井下地材の安全性(壁とのクリアランスを含む)についての計算書を添付し、監理者の承認を得ること。天井仕上材についても同等の安全性とすること。
●仕上表に上記天井耐震下地仕様の記入がない場合は、法的な特定天井を除き、仕様Dを採用する。
(11)屋外の軒天井、ピロティータン井等の補強：
○施工計画書に耐震・耐風安全性についての計算書を添付し、監理者の承認を得ること。
○無

●5節 軽量鉄骨壁下地

14.5.3
形式及び寸法

(1)スタッド、ランナーの種類：

施工箇所	種類
設計図による	●表14.5.1による ○50形 ●65形 ○75形 ○90形 ○100形

注4. 高さが5mを超える場合 (表14.5.1)
○設計図による (構造計算による部材を適用する)
層間変位等によるきしみ音対策
●無 ○有(特記)

○6節 金属成形板張り

14.6.2
材料

(1)種別及び表面処理

施工箇所	材種	形状製法	表面処理	取付け下地	備考(程度)

14.6.3
工法

(5)長尺ものの伸縮調整継手
○無 ○有(特記)

○7節 アルミニウム製笠木

14.7.2
材料

(1){3}アルミニウム製笠木の種類と表面処理 (表14.2.1)

施工箇所	種類	表面処理		
	○250形 ○300形 ○350形 ○400形 ○500形 ○550形	○AB—1種(無着色陽極酸化皮膜)		
		○AB—2種(着色陽極酸化皮膜)		
		○AC—1種(無着色陽極酸化皮膜)		
		○AC—2種(着色陽極酸化皮膜)		
		○BA—1種(無着色陽極酸化塗装複合皮膜)		
		○BA—2種(着色陽極酸化塗装複合皮膜)		
		○BB—1種(無着色陽極酸化塗装複合皮膜)		
		○BB—2種(着色陽極酸化塗装複合皮膜)		
		○BC—1種(無着色陽極酸化塗装複合皮膜)		
		○BC—2種(着色陽極酸化塗装複合皮膜)		
		○OC 種(化成皮膜の上に塗装)		

(2)隅角部及び突当り部等の役物：○笠木製造所の仕様 ○()

○8節 手すり及びタラップ

14.8.2
手すり

(1)手すりの材料種別：○設計図による ○()

14.8.3
タラップ

(1)材料及び仕上げ
材料種別：●ステンレス ○その他()

○9節 システム天井 [追加]

14.9.1 [追加]
材料

施工箇所	方式	パー材種	天井材	厚さ(mm)	アルミ材の着色	備考
	○ライン方式	○アルミニウム	○ロックウール		○あり	
	○クロス方式	○スチール	○グラスウール		○なし	
	○ロ型方式					

システム天井における耐震性を考慮した補強：○設計図による ○()
○軽量鉄骨天井下地、「天井下地材」における耐震性を考慮した補強(表14.4.4(10))に準じる
○施工計画書に天井設計用加速度に対する天井下地材の安全性(壁とのクリアランスを含む)についての計算書を添付し、監理者の承認を得ること。天井仕上材についても同等の安全性とすること。

15章 左官工事

●1節 共通事項

15.1.2
基本要品質

●屋内の壁及び天井の仕上げ材は、防火材料又は建築基準法に基づく基材同等の認定表示のあるものとする。

●3節 モルタル塗り

15.3.2
材料

(1)モルタル：○現場調合材料 ●既調合材料
(6)既製目地材：●適用する(材質：塩ビ製、形状：溝目地) ○適用しない

15.3.5
工法

(2)(ウ)床目地の設置及び工法
設置：●設置する(室内は縦横1.8m程度、廊下は3.6m程度の割付間隔) ○設置しない
工法：●押し目地 ○()
(4)(イ)(c)③外壁タイル張り下地等の下地モルタルの接着力試験：
○適用：試験範囲()

●4節 床コンクリート直均し仕上げ

○5節 セルフレベリング材塗り

15.5.2
材料

(1)種類及び品質

施工箇所	種類	厚さ(mm)	圧縮強度(N/mm2以上)
	○セッコウ系	○10 ○	
	○セメント系	○10 ○	

●6節 仕上塗材仕上げ

15.6.2
材料

(1)仕上塗材
(ア)ホルムアルデヒド放散量：●F☆☆☆☆ ○
(イ)種類、仕上げの形状、工法 (表15.5.1)

施工箇所	種類(呼び名)	仕上げの形状	工法	備考
風除室外壁	防水形複層塗材E	ゆず肌	吹付工法	

(エ)内装薄塗材及び内装厚塗材で吸放湿性を有する塗材を用いる場合：
○適用：()
(キ)複層仕上塗材の耐候性 ●耐候性3種 ○()
(ク)複層仕上塗材の上塗材種類
溶媒：●水系 ○溶剤系
樹脂：●アクリル系
外観：●つやあり ○つやなし ○メタリック
(ケ)防水形の増塗材：●行う
(コ)防火材料の指定が必要な場合：
●建築基準法に基づく認定を受けた材料とする。

15.6.4
下地処理

(4)ALCパネルの内壁目地の形状：
●V形目地付き ○()

○7節 マスチック塗材塗り

15.7.2
材料

(1)種別

塗装面	種別
○コンクリート、押出成形セメント板、 モルタル、及びALCパネルの下地面	○A種 ○B種

(表15.6.1)

(2)仕上材塗り：
○適用：種類：○つや有合成樹脂エマルジョンペイント ○アクリル樹脂エナメル

○8節 セッコウプラスター塗り

○10節 しっくい塗り

15.10.1
一般事項

下地：○木すり、こまじ土壁塗り、セッコウラスボード、セッコウボード以外の下地

15.10.2
材料

○現場調合材料 ○既調合材料(しっくい塗材の種類等：())

○12節 ロックウール吹付け

15.12.2
材料

(1)ロックウールのホルムアルデヒド放散量：○F☆☆☆☆ ○
(4)接着剤のホルムアルデヒド放散量：○F☆☆☆☆ ○

施工箇所	種類	厚さ(mm)	備考(程度)
	○断熱用		
	○吸音用		

15.12.3
配合及び密度等

(2)仕上げ吹付け厚さ：○()

16章 建具工事

●1節 共通事項

16.1.1 [追加]
一般事項

a. 建具の施工図には、平面図、材料、防火区画、ガラスの取付け、金物の納まり、シーリング材、主
体工事その他工事との関係等、必要事項を漏れなく記載する。

16.1.2 [追加]
基本要品質

(4)性能確認試験
性能確認試験：●行わない ○行う()
試験の種類：○耐風圧 ○耐震 ○水密 ○気密 ○遮音 ○()
試験体の製作：●製作しない ○製作する(寸法：())

16.1.3
防火戸

(1)防火戸の指定：○設計図による
(3)自動閉鎖機構関連：○設計図による

16.1.4
見本の製作等

(1)建具見本の製作：●しない ○する()
(2)仮組の実施：●しない ○する()

16.1.6
その他

(2)防犯建物部品：○適用する ○適用しない

○2節 アルミニウム製建具

16.2.2
性能及び構造

(2)アルミニウム製建具の性能値等
(ア)耐風圧性、気密性、性能等級等(コンクリート系下地及び鉄骨下地) (表16.2.1)

施工箇所	種別	枠見込み寸法	備考(程度)
	○A種		
	○B種		
	○C種		

(ア)耐風圧性、気密性、性能等級等(木下地) (表16.2.2)

施工箇所	種別	枠見込み寸法	備考(程度)
	○D種		
	○E種		

(イ)遮音性能等級等 (ドアセット：JIS A 4702、サッシセット：JIS A 4706)

施工箇所	性能等級	備考(程度)
	○T-1	
	○T-2	
	○T-3	
	○T-4	

(ウ)断熱性能等級 (ドアセット：JIS A 4702、サッシセット：JIS A 4706)

施工箇所	性能等級	備考(程度)
	○H-1	
	○H-2	
	○H-3	
	○H-4	
	○H-5	
	○H-6	

(エ)耐震性能：面内変形追随性の等級：D-1→D-3(クレード低→高)
○D-1(面内変形角1/300rad)
○D-2(面内変形角1/150rad)
○D-3(面内変形角1/120rad)

16.2.3
材料

(5)網戸等
網の材質：○合成樹脂製 ○ガラス繊維入り合成樹脂製 ○ステンレス製

16.2.4
形状及び仕上げ

(4)表面処理の種別

施工箇所	表面処理
設計図による	○BA—1種(無着色陽極酸化塗装複合皮膜) ○BA—2種(着色陽極酸化塗装複合皮膜) ○BB—1種(無着色陽極酸化塗装複合皮膜) ○BB—2種(着色陽極酸化塗装複合皮膜) ○BC—1種(無着色陽極酸化塗装複合皮膜) ○BC—2種(着色陽極酸化塗装複合皮膜) ○OC 種(化成皮膜の上に塗装)

着色塗料の種類
高耐久性塗料
○高温硬化型(熱加塑性)フッ素樹脂系塗料
○常温硬化型(熱硬化型：中温、低温)フッ素樹脂系塗料
○常温硬化型(熱硬化型：中温、低温)アクリルシリコン樹脂系塗料
一般環境塗料
○焼付型ポリウレタン樹脂系塗料
○常温硬化型(熱硬化型：中温、低温)ポリウレタン樹脂系塗料
○熱硬化型(中温)ポリエステル樹脂系塗料
○熱硬化型(中温)アクリル樹脂系塗料
仕上げ：○メタリック ○ソリッド ○()
(7)結露水の処理方法：○外部排出 ○密閉自然乾燥

16.2.5
工法

(1)(ウ)水切り板、ぜん板等 ○設計図による
(2)(ウ)④内付け建具仕様 ○適用

16.3.2
性能及び構造

(2)樹脂製建具の性能値等
(ア)耐風圧、気密性、性能等級等(コンクリート系下地及び鉄骨下地) (表16.3.1)

施工箇所	種別	耐風圧性能	枠見込み寸法	備考(程度)
	OA種			
	OB種			
	OC種			

(ア)耐風圧、気密性、性能等級等(木下地) (表16.3.2)

施工箇所	種別	耐風圧性能	枠見込み寸法	備考(程度)
	OD種			
	OE種			

(イ)遮音性能等級等 (表16.3.3)

施工箇所	種別	性能等級	備考(程度)
	OT-A種	T-1	
	OT-B種	T-2	

(ウ)断熱性能等級 (表16.3.4)

施工箇所	種別	性能等級	熱貫流率 (W/(m2・k))	備考(程度)
	OH-A種	H-4	2.91以下	
	OH-B種	H-5	2.33以下	
	OH-C種	H-6	1.9以下	

16.3.3
材料

(7)ガラス:○複層ガラス ○単層ガラス ○三重ガラス

16.3.4
形状及び仕上げ

(2)建具の枠の見込み寸法:○設計図による
(6)表面色:○標準色 ○特注色

○ 4節 鋼製建具

16.4.2
性能及び構造

(2)鋼製建具の性能値
(ア)簡易気密型ドアセットの気密性、水密性等の等級 (表16.4.1)

種別	気密性	水密性
簡易気密型ドアセット	OA-3	OW-1

※外部に面する鋼製建具(片開き)の耐風厚性能はS-5とする。
(両開き扉・親子開き扉は耐風圧計算を行いS-5同等であることを確認すること)

(表16.2.1)

施工箇所	種別	枠見込み寸法	備考(程度)
	OA種		
	OB種		
	OC種		

耐風圧性、気密性、性能等級等(木下地) (表16.2.2)

施工箇所	種別	枠見込み寸法	備考(程度)
	OD種		
	OE種		

(イ)遮音性能等級等 (ドアセット:JIS A 4702、サッシセット:JIS A 4706)

施工箇所	性能等級	備考(程度)
	OT-1	
	OT-2	
	OT-3	
	OT-4	

(ウ)断熱性能等級 (ドアセット:JIS A 4702、サッシセット:JIS A 4706)

施工箇所	性能等級	備考(程度)
	OH-1	
	OH-2	
	OH-3	
	OH-4	
	OH-5	
	OH-6	

16.4.3
材料

(1)銅板類
(1)銅板のめっき付着量

施工箇所	種別	めっきの付着量
	○JIS G 3302(溶融亜鉛めっき銅板及び銅帯)	○Z12 ○F12 ○
	○JIS G 3317(溶融亜鉛-アルミ合金めっき)	○Y08 ○

16.4.4
形状及び仕上げ

(1)銅板の厚さ:○設計図による ○標仕による

○ 5節 鋼製軽量建具

16.5.2
性能及び構造

(2)鋼製軽量建具の性能値
(ア)簡易気密型ドアセットの気密性:●設計図による ○A-3 ○
(イ)遮音性能等級等 (ドアセット:JIS A 4702、サッシセット:JIS A 4706)

施工箇所	性能等級	備考(程度)
	OT-1	
	OT-2	
	OT-3	
	OT-4	

(ウ)断熱性能等級 (ドアセット:JIS A 4702、サッシセット:JIS A 4706)

施工箇所	性能等級	備考(程度)
	OH-1	
	OH-2	
	OH-3	
	OH-4	
	OH-5	
	OH-6	

16.5.3
材料

(1)鋼板類
(イ)ビニル被覆銅板:○設計図による
(ウ)カラー銅板:○設計図による
(5)召合わせ縦小口包み板等の材質:○銅板 ○ステンレス ○アルミニウム合金

● 6節 ステンレス製建具

16.6.3
材料

(1)ステンレス鋼板の種類:
●SUS304 ○SUS430J1L ○SUS443J1 ○SUS316 ○SUS445J1 ○SUS445J2

16.6.4
形状及び仕上げ

(4)表面仕上げ:●H.L仕上げ ○

16.6.5
工法

(1)曲げ加工 :●普通曲げ ○角出し曲げ ○

○ 7節 木製建具

16.7.2
材料

(1)含水率
建具材の加工、組立時の含水量

施工箇所	含水量
	OA種 OB種 OC種

(2)フラッシュ戸の材料: ○設計図による ○標仕による
(a)フラッシュ戸表面材合板のホルムアルデヒド放散量:○F☆☆☆☆ ○
(b)接着の程度: ○標仕による ○
(c)普通合板の板面の品質: ○標仕による ○
(3)かまち及び鏡板の樹種: ○設計図による ○
(4)ふすま上張りの種類: ○設計図による ○
(5)接着剤のホルムアルデヒド放散量:○F☆☆☆☆ ○
(9)枠及びくつずりの材料: ○設計図による ○

16.7.3
形状及び仕上げ

(1)(ア)フラッシュ戸見込み寸法 : ○設計図による ○標仕による ○
(イ)フラッシュ戸表面板の厚さ: ○設計図による ○標仕による ○
(ウ)木製建具の見込み寸法: ○設計図による ○標仕による ○

16.7.4
工法

(3)ふすまの工法
縁の仕上げ:○うるし塗り ○カシュー樹脂塗料2回塗り ○白木 ○()

● 8節 建具用金物

16.8.4
鍵

(1)マスターキー:○製作する(○3本 ○部門マスターキー計15本) ●製作しない
グランドマスターキー:○製作する(○2本) ○製作しない
コンストラクションキー:○製作する ○製作しない
※キーシステムは本棟マスターキーと関連づけること

● 9節 自動ドア開閉装置

16.9.2
性能

(2)自動ドア開閉装置の性能値:
引き戸:○設計図による ●標仕による ○

16.9.3
機構

(1)扉の開閉方法:●設計図による
(2)引き戸用検出装置の種類:○光線(反射)センサー ○音波センサー
○熱線センサー ●光電センサー ○電波センサー ●タッチスイッチ(非接触)
○押しボタンスイッチ ○多機能トイレスイッチ
(7)凍結防止装置:●行わない ○行う()

○ 10節 自閉式上吊り引き戸装置

16.10.3
性能等 [追加]

(2)自閉式上吊り引き戸装置の性能:
フリーストップ機構:○有 ○無
煙感連動解除装置:○有 ○無 (設置個所は建具表による)

○ 11節 重量シャッター

16.11.2
形式及び機構

(1)シャッターの種類:
○管理用シャッター ○外壁用防火シャッター ○屋内用防火シャッター
○防煙シャッター ○耐火クロス製防火/防炎スクリーン
(2)耐風圧強度 (N/m)
管理用シャッター :○50 ○80 ○120 ○
外壁用防火シャッター:○50 ○80 ○120 ○
(3)開閉機能による種類:○上部電動式(手動併用) ○上部手動式
(4)保護装置設置箇所()
(6)防火シャッター及び防煙シャッター以外のシャッターケース:○設ける ○設けない

16.11.3
材料

(1)スラット及びシャッターケース用鋼板

施工箇所	種別	めっきの付着量
	○JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板及び銅帯)	Z12又はF12を満足するもの
	○JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び銅帯)	Z12又はF12を満足するもの

○ 12節 軽量シャッター

16.12.2
形式及び機構

(1)開閉機能による種類:○上部電動式(手動併用) ○手動式
(2)耐風圧強度:○50 ○80 ○120 ○

16.12.3
材料

スラットの材質

施工箇所	種別	めっきの付着量
	○JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び銅帯)	Z06又はF06を満足するもの
	○JIS G 3322(塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び銅帯)	AZ90を満足するもの

16.12.4
形状及び仕上げ

(2)スラットの形状:○インターロッキング形 ○オーバーラッピング形

○ 13節 オーバーヘッドドア

16.13.2
形式及び機構

セクションの材質 ガイドレールの材質 操作方式 収納形式 備考
○スチールタイプ ○ステンレス ○バランス式 ○スタンダード形
○アルミニウムタイプ ○銅板 ○チェーン式 ○ローヘッド形
○ファイバークラスタイプ ○ ○電動式 ○ハイレフト形
○ ○ ○ ○パーチカル形
(2)耐風圧性能区分:○50 ○75 ○100 ○125 ○

16.13.3
材料

(2)ガイドレールに使用する材料:○溶融亜鉛めっき鋼板 ○ステンレス鋼板

● 14節 ガラス

16.14.2
材料

(1)板ガラス
種別、種類、仕様等は設計図による。
(2)ガラス留め材 (表16.14.1)

建具の種類	材質
アルミニウム製	○シーリング材 ○ガスケット○グレイジングチャンネル形 ○ビート形
鋼 製	○シーリング材 ○ガスケット○グレイジングチャンネル形 ○ビート形
ステンレス製	●シーリング材 ○ガスケット○グレイジングチャンネル形 ○ビート形
木 製	○押縁 ○シーリング材

シーリング材は(表9.7.1)による。

16.14.3
ガラス溝の寸法、形状等

(1)板ガラスをはめ込む溝の大きさ:●建具の製造所の仕様による
○面クリアランス mm ○エッジクリアランス mm ○掛り代 mm

16.14.4
工法

(2)(ウ)熱線反射ガラスの映像調整:○行う ●行わない

16.14.5
ガラスブロック積み

(1)材料
ガラスブロックの表面形状(柄):○() 色調:○()
呼び寸法:○() 厚さ:○()
壁用金属枠及び補強材:壁用金属枠○() 補強材:○()
カ骨の材質:○SUS304 ○() 寸法:○径5.5mm ○()
形状:○はしご形状複筋及び単筋 ○()
化粧目地モルタルの色:○()
シーリング材の種類:○()
金属製化粧カバーの材質:○() 寸法:○()形状:○()
(2)工法
(ア)風圧力に対応した工法:○()
(イ)壁用金属枠の取付け:○木下地の場合の壁用金属枠取付け時の留め付け間隔
(ウ)(ア)、(イ)以外の工法
(a)目地幅の寸法:○標仕による ○設計図による ○ mm
(b)伸縮調整目地の位置:○標仕による ○設計図による ○ mm
(h)目地仕上げ
(i)伸縮調整目地のカ骨の補強方法:○ガラスブロック製造所の仕様 ○

16.14.6 [追加]
飛散防止、樹脂ガラス等

a.飛散防止フィルム
施工箇所:(屋内外 全ての建具のガラス)
機能:(●飛散防止 ○断熱 ●目隠し)
色: ○透明 ●パターン
程度:(厚さ: 100μm、製品(3M ファサラガラスフィルム グラデーション イルミナα) 同等)
b.樹脂ガラス
施工箇所:()
材料種類:(○ポリカーボネイト ○アクリル樹脂 ○)
機能:(○飛散防止 ○断熱)
色:(○透明 ○エンボス())
程度:(厚さ: 、製品()同等)

17章 カーテンウォール工事

○ 1節 共通事項

17.1.2 [追加]
基本要求品質

施工図には、パネルの割付け、取付け金物の配置、浸入水、結露水の排水処理、層間変位追従方式、層間ふさぎ、耐火被覆及び他の工事との取合い等の詳細を記載する。

17.1.3
性能

(1)諸性能値
耐風圧性

性能値	備考
設計用風圧力の最大値 ○正圧: 2460Pa ○負圧:-1860Pa	○建築基準法施行令第82条5又は建設省告示1458号により算出した値とし、速度圧はS-3(±1600Pa)以上とする。
設計用風圧力に対するたわみ及び絶対量(mm)	
○メタルカーテンウォール	○PCカーテンウォール
○たわみ 1/200以下	○たわみ 1/ 以下
○絶対量 20mm以下	○絶対量 mm以下
○たわみ 1/200以下	○絶対量 mm以下
○絶対量 mm以下	○絶対量 mm以下

○ガラスの破損、有害な亀裂の発生、ひずみの残留などの起こらないこと。
○風洞実験を行った場合はその値による。

耐震性

メタルカーテンウォールの層間変位追従性能 <JASS 14.2>

ランク	カーテンウォールが受けた層間変位	カーテンウォールの破損の程度	備考
OA	1/300	○健全で再使用できる程度(水密性能の低下をきたすようなシール・気密材の剥離・離脱等もなく、まったく補修を必要としない程度)	
OB	1/150	○主要部が破損しない程度(ガラス、パネル、支持部材、部品等の脱落、破損がない程度)	
OC	1/100	○主要部が破損しない程度(ガラス、パネル、建物の水平保耐力と同等とした場合支持部材、部品等の脱落、破損がない程度)	

○大地震時には、ファスナーが躯体変位にスムーズに追従し、かつ漏水などの外壁機能の低下を生じないこと。
○中地震時には、ファスナーがスムーズに追従し、かつ漏水などの外壁機能の低下を生じないこと。

POカーテンウォールが確保する水準(破壊程度の区分)は <JASS 14.2>による
○大地震時の強制変形角に対して、ファスナーが追従でき、パネルが脱落しないこと。
○中地震時の強制変形角に対して、ファスナーがスムーズな追従性能を有し、シーリング性能を保持して漏水がないこと。

水密性能

部位	性能値	備考
可動サッシ部(平均値)	○ Pa	○400Paを平均圧力として設定する。
一般部分(平均値)	○ 500Pa	○設計用風圧力の正圧最大風圧力の1/2を平均圧力として設定する。

○室内側に漏水が起こらないこと。

気密性能 (JIS A4706.A4702)

等級	気密性等級線	備考
OA-3	8等級線以下	○基準階標準部分の平均空気量は圧力差10Paに対し、2m3/h・m(2等級線)以下を基準とする。
OA-4	2等級線以下	

耐火性能

○ 建築基準法施行令第107条及び第112条10項による。
○ 火煙防止層及び層間ふさぎは法令を満足すること。

耐温度差性能 <JASS 14.2>

材料	ΔT(部材の実効温度差℃)
直射日光のあたる暗色の金属材	80℃
直射日光のあたる明色の金属材	70℃
その他の部材	60℃

○構造上、美観上、性能上有害な欠陥が発生しないこと。

遮音性能 (ドアセット:JIS A 4702、サッシセット:JIS A 4706)

施工箇所	性能等級	備考(程度)
	OT-1	
	OT-2	
	OT-3	
	OT-4	

○可動サッシ部分を含めた総合透過損失がガラスの遮音性能を下回らないこと。

断熱性能 (ドアセット:JIS A 4702、サッシセット:JIS A 4706)

施工箇所	性能等級	備考(程度)
	OH-1	
	OH-2	
	OH-3	
	OH-4	
	OH-5	
	OH-6	

シーリング方式

○オーブンジョイント方式 ○シングルシール方式 ○ダブルシール方式
○上記の混合方式 ○

ガラスの支持方式

○不定形シーリング材構法 ○構造ガasket構法 ○グレイジングガasket構法
○SSG構法 ○DPG構法 ○()

断熱材

○結露防止及び断熱のために使用する。吸湿性のない材料、結露が発生した際に接触する金属を腐食させない材料、所定の耐火性能を満足する材料を使用する。

摩擦低減材料

○部材の伸縮による接合の恐れのある部分及び層間変位追従のため部材間の滑りを必要とする部分には、摩擦低減材料を使用する。

接触腐食

○異種金属、コンクリートなどの接触による腐食が生じ、美観その他の性能に欠陥を生じることのないよう絶縁する。

(3)性能確認試験

性能確認試験 :○行わない ○行う()
試験体の製作 :○製作しない ○製作する(寸法:)
試験の種類 :○耐風圧 ○耐震 ○水密 ○気密 ○遮音 ○()

